

令和2年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	コロナ禍で、見合わせた行事や学習活動が多かったが、後半は感染症対策をしながら実施することを試みることができた。校内に目を向け、異学年交流、無言清掃の充実を図り、子供たちは相手意識や本気で取り組むやりがいを感じて活動した。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
	1	支え合う学級づくり	異学年との交流活動を通して、相手意識や友と協力する力を培った。常に肯定的・受容的な見方や言葉を教室に広げていく。	A	Q-U 検査やアンケートから児童の状況を把握し、全職員で共通理解を図る。児童会と連携してあいさつの充実を図る。
	2	学び合う授業づくり	「聞く」ことを大事にするとともに、基礎学力の定着を図った。発達段階に応じて、自主学習の充実を図る。	A	答えを導き出すための思考の過程を大事にし、図や言葉で伝え合いながら学ぶ。適切な学習形態を取り入れる。
3	高め合う活動づくり	個のめあてを持ち、活動に取り組んで振り返ることで、子供たちが意欲的に主体となって活動することができた。友や地域との横のつながりを強めていく。	B	PDCA サイクルを大事にししながら、個から周りの人とのつながりへ目を向けて活動を深めていく。コロナ禍でできる地域学習に積極的に取り組む。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
学校教育	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	感染症対策の朝の検温の際、明るい挨拶を交わす子が増えた。児童会でもよい姿を広める活動を行った。児童会と連携して取り組む。	A	児童会を中心に、挨拶を呼びかけていく。朝の挨拶だけでなく、入室時や感謝の言葉も明るく言えるように呼びかけを行う。
		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めることができたか。	状況をみながら、グループ学習や異学年との交流活動に取り組んだ。校外での活動が制限された分、校内での活動の充実を図りながら、自主的な活動の場を作った。振り返りをし、次につなげていくことが有効だった。	A	活動の振り返りをしっかり行うことで、次への課題や意欲が生まれ、活動の質が向上する。子供たちが見通しを持ち、自信を持って活動することで、自己有用感を持てるように支援していく。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U 検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	Q-U 検査や仲良しアンケートを実施し、子供たちの状況や実態把握に努めた。また、図書館や保健室での児童の様子も全職員で共有し、個に応じた支援や指導を行った。	A	職員で情報を共有するため、生徒指導係または教頭が情報を集約し、全職員で共有を図る。迅速な報告・連携・相談を図る。子供たちを複数の職員が目で見つめる。
	学び合う授業	学習の約束・きまりを守り、深める学習	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	相手の話を聞くことを授業の中で大事に考えてきた。友だちや先生の話聞いて考えることがあまりできなかったと回答した子が15%おり、友だちの考えを自分の学習に活かす場の工夫をしていく。	A	話し手に目と体を向けて最後まで聞くことを続けていく。ペアやグループなど、学習形態を工夫して学び合いの場を持つ。相手意識を持ち、声の大きさへの意識も育てていく。

	学び合う授業	自主的・計画的に取り組む家庭学習	「紡ぐ」を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	臨時休業中に、動画を作成するなど、予習的学習を支える取り組みに挑戦した。「学びの継続」のためにも、自主学習の充実を目指す。	B	年度当初に作成し家庭配布している各学年の家庭学習の手引きをもとに、自主学習をすすめ、職員も学び合う。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	基礎学力の定着向上や、意欲的に追究する姿が増えてきている。ねらいや学習課題が自分事として捉えられることを大事に考えて、「できた」「わかった」授業づくりを進める。	A	各教室に設置している板書カードを有効に活用してねらいと振り返りの一体化を図る。思考の過程を互いに交流して学ぶ合う場面を設定していく。
	高め合う活動	個の目標に向かって取り組む	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	限られた学校行事の中で児童が主体となることを考え行った。役割を分担して任せることので、やりがいを感じて取り組む姿があった。	A	個のめあてを設定し、粘り強く取り組む姿勢や気付きを支援する。個の目標を共有し、励まし合ったり認め合ったりする。
		発展的・継続的に広がる学習を構想する	教科の枠を超えて関連させた学習指導や活動を構想して、主体的に取り組む姿を増やすことができたか。	学級活動の中に教科で学習したことを取り入れた。また、リーフレットや新聞づくりにじっくり取り組むことで、主体的に調べたりまとめたりする姿が増えた。	B	今年度の年間指導計画を見直し、教科横断的に展開する学習活動の見直しをする。総合的な学習の時間を有効に活用するとともに、学びの記録を蓄積していく。
		地域との学び	地域資源（人材・題材等）を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	感染症対策のため、地域講師を招いての学習は制限されることが多かった。場所や時期を柔軟に工夫し、地域の学びが可能な方法を探る。	B	コロナ禍でも地域から学ぶことを構想し、地域の応援団に伝えて、感染症対策をしながら実現可能な方法を一緒に探っていく。
	学校運営	地域との連携	情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページを通して情報をタイムリーに発信できたか。	学級・学校だよりや学校ホームページで、学校や子供たちの様子を積極的に発信した。動画配信は、著作権が課題であり進まなかった。	A
PTA や地域の方々との連携			PTA や地域の方々との連携を十分に行うことができたか。	通学路の安全にかかわって連携して対応できた。感染症対策のため、保護者の参観、地域の方に学ぶ機会が少なかった。	B	感染症対策をしながら、地域から学ぶ方法を積極的に探る。感染症対策を施し、参観の機会を前向きに設けていく。

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった